

10. 高血圧の指摘や治療の継続状況と野菜摂取量の関連：NIPPON DATA2010

研究協力者 中川 夕美（大阪市立大学大学院生活科学研究科 大学院生）
研究分担者 由田 克士（大阪市立大学大学院生活科学研究科 教授）
研究協力者 荒井 裕介（千葉県立保健医療大学健康科学部 准教授）
研究分担者 尾島 俊之（浜松医科大学医学部健康社会医学講座 教授）
研究協力者 藤吉 朗（和歌山県立医科大学医学部衛生学講座 教授）
研究協力者 中川 秀昭（金沢医科大学医学部 客員教授）
研究分担者 奥田奈賀子（京都府立大学大学院生命環境科学研究科健康科学研究室 教授）
研究協力者 宮川 尚子（慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学教室 特任助教）
研究分担者 門田 文（滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 准教授）
研究協力者 近藤 慶子（滋賀医科大学 NCD 疫学研究センター予防医学部門 助教）
研究分担者 岡村 智教（慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学教室 教授）
研究分担者 大久保孝義（帝京大学医学部衛生学公衆衛生学講座 教授）
研究分担者 西 信雄（医薬基盤・健康・栄養研究所国際栄養情報センター センター長）
顧問 上島 弘嗣（滋賀医科大学 NCD 疫学研究センター 特任教授）
研究分担者 岡山 明（生活習慣病予防研究センター 代表）
研究代表者 三浦 克之（滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 教授）

NIPPON DATA80/90/2010 研究グループ

【目的】

高血圧者に対する食事指導等の介入によって野菜摂取量の増加が認められたとする報告はこれまでにもあるが、高血圧を指摘されることそれ自体や治療の継続状況と野菜摂取量の関連を検討した報告はない。そこで、高血圧の指摘や治療の継続状況が、実際の野菜摂取量に影響を与えるのか検討した。

【対象と方法】

対象は平成 22 年国民健康・栄養調査及び NIPPON DATA2010 の 20 歳以上の参加者を対象とした。このうち、これまでに医療機関や健康診査で脳卒中、心筋梗塞、腎臓病または腎機能低下と指摘されたことはないが、高血圧の指摘を受けている者もしくは高血圧、糖尿病、脂質異常症のいずれの指摘も受けたことはないが、国民健康・栄養調査の血圧測定値が高血圧（収縮期血圧 140mmHg 以上または拡張期血圧 90mmHg 以上の者と定義）であった高値血圧者の男女 1,004 人を解析対象とした。野菜摂取量が多いこと（1 日 350 g 以上）をアウトカムとして、高血圧を指摘されることやその後の治療の継続状況（治療継続、治療中断、未治療）との関連をロジスティック回帰分析にて検討した。

【結果】

野菜摂取量が多いことと高血圧を指摘されることは男女とも有意な関連はなく、野菜を積極的に摂取しようと心がけることとのオッズ比が男性 1.72 (95%CI: 1.17- 2.53)、女性 1.51 (95%CI: 1.04- 2.21)と有意な正の関連が認められた。野菜摂取量が多いことと高血圧者における治療の継続状況では、野菜を積極的に摂取しようと心がけることとのオッズ比が男性 1.69 (95%CI: 1.07- 2.68)と有意な正の関連、「治療中断」の女性でオッズ比 0.37 (95%CI: 0.15- 0.90) と有意な負の関連がみられた。

男女とも野菜の摂取量と高血圧の指摘自体との関連は認められなかったが、女性では治療中断と負の関連が示唆された。

【結論】

医療機関や健診で高血圧の指摘や継続的な治療を受ける人は、野菜を積極的に摂取しようと留意する意識が高く、その意識が野菜摂取量の増加につながっている可能性が示唆された。

日本循環器病予防学会誌 2022 (in press)